



DX とはなんだ？ あ～あ、デジタル庁…。

最近やたらと『DX』なる文言が出てきます、デジタルトランスフォーメーション。何をすんねん？という疑問ですが、IT化をして生活まで浸透させて、国民がより良い快適な社会で暮らせるようにすることを目指すようです。各企業は企業で、ITを駆使してより生産性を向上させ、ビジネスを変革して、企業文化さえも変革させてゆこうという取り組みです。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、新興国でも経済や暮らしなど幅広い分野でDXが進展しており、この分野では日本はもはや後進国というレベルだそうです。『リープフロッグ現象』…つまりインフラがなかったがゆえに、大きく遅れていた新興国が一足飛びにジャンプしてDXの世界へ突入してゆくというわけです。オンライン決済・ECライブコマース・フードデリバリー・ゲーム・遠隔治療・オンライン教育・越境リモートワーク・移動観光デジタル化・デジタル行政・スマートシティ・ヘルステックなどなど…。その世界は非常に広く多義にわたっています。



日本の『御上』としては、デジタル庁を発足させて何をやらんとしているのか…？HPを観ても今一何がしたいのかよくわかりません。行政サービスのデジタル化に軸足があるのか、銀行や会社の口座を結び付けて税金を確実に捕捉したいのか…。個人情報を着実にとらえて便利にして行くという反面、資金の流れを一番知られたくない政治家は大反対しそうな雰囲気もあり…。

デジタル庁監に任命されたのが『石倉洋子』氏。ハーバード大学卒のマッキンゼーに長年いた超優秀だったと目されるお婆さん（72歳）…なんでやねん？マッキンゼー・ジャパンの初代社長・大前研一氏（元上司）に言わせると『石倉はデジタルのデの字も知らん…』。そもそも、各省庁から300人の役人が『出向』ではなく、なぜか『兼任』でやってきて、企業からはNEC・富士通・日立・NTTデータ・三菱・パナソニックなどなどから300人が集められ、総勢600名体制…。これ、ほとんど『みずほ銀行状態』で、失敗は確定！そもそもマイナンバーなるものは、昔問題になっていた『住基ネット』を基盤としており時代錯誤も甚だしい。まさに『ナンバー』制・数字の羅列なのが問題で、だから今でもパスワードを4つも覚えとけて代物で、昨日の昼食を何食べたかも覚えていない我々には全くもって使えないわけです。つまり、今や生体認証技術（両目の虹彩認証と指紋認証の掛け合わせ）が基盤となっていないなくてはならず、その世界のトップ企業はNEC。米軍や国防総省ペンタゴンでもNECの技術で運営されており、電気屋さんがいっぱい集まってもNECはうっすら笑ってるだけだろうなあ…。しかも、デジタル庁監を選択する際に、この人ならばやれるかもという御仁がいたが、NECに近すぎるという理由で落選したというのだ…下手な平等主義というか、目的へ一気に走れないというか…官僚の世界はこんなモンでして…。

インドでは一気に『デジタル・インド』に移りました。田舎には郵便局すらないし、銀行口座なんて持ってない人は大勢います。さらには身分制度で、宗教も家族制度も絡んで実に難しいお国柄。これを一年半で一気に13億人にスマホをぶん投げて、マルっとくくって『国民IDシステム・アール』を作り上げて、お国を挙げてDXしちゃいました。大手IT企業の共同経営者・ナンゲンニレカニ氏の手腕はたいへんなものです。この方、今浪人して遊んでおられるので、10億円でも払って一年半で日本をマルっと上げてもらえるとありがたいと思うのですが…。なぜか、日本政府は外国人の超優秀な経験者にやらせることを知りません。思うんですよねえ…、ラグビーのジャパン、外国人（5年以上の国内プレー者）との混成チームでトップも外国人、韓国人の具君でも『君が代』を歌っていた。こうしてジャパンは強くなってゆく。お国自体がこうであればよいのですが…。



欧米人のマスク嫌い。。。やむなし。。。

長引くマスク着用生活にすっかり馴染んでしまった日本人。馴染み過ぎた結果、マスクを人前で外すこと＝パンツを脱ぐことと同じくらい恥ずかしいと「顔パンツ」なる言葉まで生まれました。一方で、ワクチン接種が済むと同時にマスクを外して街中で買い物や飲食を楽しむ人の姿が溢れている欧米人の映像を見るたびに感染リスクへの不安を感じずにはられません。



欧米人がマスクを外したがる理由は、単に顔が見えないからというわけではなく、コミュニケーションを取る際にどこに注目しているかが違うからだとか。東京女子大学で心理学が専門の田中章浩教授によると、顔の中で一番顕著に感情が表れるのは口元で、一番感情を偽りにくいのが目元とのこと。感情を表に出す欧米人には意思で動かせる口元が分かりやすく、感情を表に出さない日本人は、意思で動かすことが難しい目元で相手の真意を読み取っているそうです（2020年6月20日付朝日新聞デジタル）。欧米人が感情を読み取るための口元が隠されたマスク姿に、不安を感じるのは、日本人が目元を隠したサングラス姿の人を見て「ちょっと怖い」という印象を抱くのと似た感覚なのではないでしょうか。

パソコンやスマートフォンのメールで感情を表現する際に使用する「顔文字」でも、日本の顔文字は感情の違いを目で表現し、口は「_」のみ。一方欧米は逆に口の形の違いが喜怒哀楽を表現していて目は「・」のみ。絵にするとこんなに違うものだったのかとマスク対応の違いに納得です。

日本(目で表現)	欧米(口で表現)
(^_^)(-_-)(・_・)(>_<)	😊 😞 😠 😡

目と口のどちらがより感情を伝えやすいかは、国によって違うのですが、どちらにしても顔パンツを外して世界中の人が笑える日が一日でも早く訪れることを願うばかりですね。

【臭いで分かる！？最新ガン検査】



昨年の秋ごろからテレビCMで見かけ、気になっていた尿一滴でガン検査ができるというキット。「N-NOSE（エヌノーズ）」というこちらの商品、なんと線虫という生き物が86.3%という精度でガンを判別するとか…？これだけ聞くとなにやら怪しげなもののように感じますが…実はこのガン検査キットの要の「線虫」は、とある筋ではとっても有名なすごいヤツで、いくつかのノーベル賞に貢献しているという生物学のアイドル的存在なのです。簡単にいうと、この「シー・エレガンス」という名前の線虫は、飼いやしく増やしやすく観察しやすいうえに、動物としての基本的な構造を備えていることから、ほかの動物ひいては人への応用が利くということで世界中で研究されている、モデル生物なのです。

その世界中で研究されている線虫「シー・エレガンス」ですが、自然界では土の中に住んでいることもあり、非常に嗅覚が発達していることは研究者の間ではよく知られていました。犬よりも優れているという嗅覚を利用して何かできないかと研究の結果できたのが、今回のガン検査キットということのようです。嘘か本当かは分かりませんが、そもそもきっかけが魚に住む寄生虫アニサキス（こちら線虫の一種）が、刺身を食べた人の「胃がん」の部分に噛みついているのを見て思いついたのかなんとか…。



線虫の飼育が簡単なため安価での検査が可能とのこと。検査キットの価格も1万円ちょっとなので、人間ドックを受けることを考えれば時間も費用も安くあがります。ただガン部位の特定ができない仕様（15種類のガンが調べられる）なので、高リスク判断が出た場合は病院でガン検診を受ける必要があったり、あくまでリスク診断であって、確定ではないところは注意が必要でしょう。

ただこの研究、線虫が反応する臭いの原因物質を解明できれば、ガン発見に大いに役立つことになりそうですし、また遺伝子操作した線虫を使うことでガンの種類を特定できるように研究がすすめられているそうで、なんと、今年中には早期発見が難しいとされる「すい臓ガン」を調べられるものが実用化するようです。早期発見、早期治療が可能になれば、将来的にはガンも治る病気になっていくのでしょうか。ここ数年はコロナ、コロナで暗い話が多いなか、ちょっと明るい医療のお話でした。

編集後記

皆様、今回の通信はいかがでしたでしょうか。今年は60年に一度の「壬寅」にあたる年です。新しく物事が始まり芽を出し、成長していく年とされています！コロナ禍で苦難の連続であったことに区切りをつけ、ぜひ寅年の恩恵に預かりたいものです。松村

